

授業の玉手箱

「Small talk」の活用

大塚 朝美

授業内で先生が「雑談」することはありますが、「雑談」は時には授業と全く関係が無く、それでも（それだからこそ？）授業よりも生徒たちは熱心に耳を傾けることも多くあります。英語では、「Small talk」（「世間話、雑談」）と呼ばれており、昨年度の英語教科教育法の授業では、この「Small talk」に注目し、Speaking スキルを向上させる目的で1つのプロジェクトを実施しました。

毎回の授業で、先生が生徒たちにするような「Small talk」を2分間、ペアまたは3人グループで全員の学生が行いました。トークをする学生はペアまたはグループのメンバーの前に立って全員が一斉に話し始め、2分間話し続けるというルールです。トーク後はさらに2分間を使って聞き手から質問をするように促しました。3人グループならばこれを3回繰り返すため、12分から15分程度の活動になります。トピックの選択は自由でしたが、あくまでも中学生や高校生を前に話すことを考えてトピックを選ぶこと、また、季節の話題や1週間以内にあったニュースや出来事を取り

入れて話すようアドバイスをしました。ただし、前もって配布している語彙リストから必ず5つのキーワードを含めることにしました。語彙リストは2000語、3000語レベルから予め担当教員が100単語を選択したものをリストにして配布しました。授業内で行ったトークはレコーダーで録音し、その音声はクラス全員がアクセスできる共有データとしていつでも聞き直しができるようにしました。自宅学習としては、授業内のトークを聞き直してサマリーを書いたり、再び口頭でサマリーを行った音声提出するという課題を与えました。

夏休みを挟んで15回実施したこの「Small talk」プロジェクトですが、スピーキング能力を測定するテスト（*OPIc）を事前・事後に行って効果をみたところ、すべての学生がスピーキング力のレベルが現状維持または1～3段階向上しているという結果が出ました。翌年に教育実習を控えていた学生たちにとって、実習中に行う授業をはじめ、朝の会や終礼などでのちょっとした「雑談」にも使える話のネタを準備することができたのではないかと思います。授業の状況に応じてできることはそれぞれですが、1つの活動例としてご参考になればと思います。

*OPIc = Oral Proficiency Interview-computer（オンラインのインタビュースキルコミュニケーション測定テスト）

教職勉強会

第5回 2019年6月29日(土) 13:20～14:50
 テーマ「教育実習を振り返る」
 「教職キャリアを考える」
 参加者 32人（短大6人、大学17人、
 科目等履修生2人、教員7人）

第6回 2019年12月7日(土) 13:20～15:00
 テーマ「講師経験から採用試験を突破して教諭になった過程」
 「介護実習で学んだこと」
 参加者 11人（大学5人、科目等履修生1人、教員5名）

教職勉強会の取り組みは3年目を迎え、定着してきた感がある。第5回勉強会では、短大2年生、大学4年生が教育実習の振り返りを発表した。後半は講師登録について教育行政に精通しておられる森均先生からのお話を伺った。（詳しくは、右欄「教職勉強会から」のコラムに掲載）第6回勉強会では本学短大卒業生で大阪市立中学校教諭の中村桃花さんに講師から採用試験にパスして教諭になった過程をお話いただいた。幾度にもわたる採用試験挑戦、その「すべての経験が生きて」という言葉や、教諭の仕事では「人としての信頼がもっとも重要」という言葉は、後輩参加者の励みとなった。後半は介護実習で学んだことについて2人の学生が発表し、異口同音にコミュニケーションをとることの大切さを述べた。



教職勉強会から

公立中学校・高等学校の講師について 森 均

公立中学校・高等学校の講師に採用されるには、公立学校を設置している教育委員会に講師に採用されるための申込書を提出する必要があります。この申込書を教育委員会に提出して、講師の候補者になることを「講師登録」といいます。

講師登録のために提出する申込書は、教育委員会によって「公立学校講師希望者登録申込書」、「公立学校臨時の任用教職員等希望調査書」等と名称が異なるし、その後の手続きや採用に至る手順も異なる。

講師には大きく分けて常勤講師と非常勤講師があるが、常勤講師は公立学校の教員に欠員が生じた場合、期限があらかじめ定められていて臨時に採用される講師である。教諭と同じ仕事を担当し次のような種類がある。

- 1) 期限付き講師：教諭の人数が足りない場合に採用される講師。4月1日付で採用されるケースが多く半年ごとの契約である。
- 2) 産休臨時講師：教諭が出産のために休暇を取得された場合に採用。
- 3) 育児休業臨時講師：教諭が出産後に、育児のために休業される場合に採用。
- 4) 病休代替講師：病気や交通事故等で勤務ができなくなった教諭の代わりに採用。

次に非常勤講師であるが、担当する授業の時間割に応じて勤務する。校務等も活動の顧問もない。

講師登録の注意点としては、希望する学校（中学校か、高等学校か、特別支援学校か）、希望する講師（常勤か、非常勤か）、希望する勤務地域などを明確にしておくことが大切。複数の教育委員会に講師登録すればチャンスが増える。

2019年度 教育実習

今年度は短大教職課程4名、大学教職課程6名が教育実習に臨んだ。

今年度の教育実習の特徴は、研究授業等で視覚教材、特にパワーポイントを使用した提示教材が多かったことである。実習校訪問をする我々は大抵、教室の後方から授業を参観することが多く、実習生の声が最後尾列の生徒まで聞こえているか、板書の字が見えているかなどを確認する。黒板や白板の大きさはどの学校もほぼ同じくらいである。しかし、各実習校にて使用されている可動型のテレビやビッグパッド、電子黒板はサイズにかなりバラつきがある（予算の違い等もちろんある）。そうなると、提示場所も黒板上に白いマグネット素材のシートを張りプロジェクターで投影する場合、テレビを黒板の右左いずれかに置く場合、ビッグパ

ッドはそのサイズと重量のため、板書ができないこともある。

本校の実習生はプレゼンテーションの授業などを通じて、デジタルの提示物は発表の展開に有利だろうことを経験的に知っているようだ。だが、電子黒板を所有する学校は少なく、多くは教員私物のノート型パソコン（以後PCと記す）でパワーポイントをテレビ画面やプロジェクターで出力する方法が多い。それらを活用することは大いに結構だが、スライド操作のためか、PCに手が届く場所から実習生は動くことが出来ていないことが多かった。つい電子教材を使用した故に、PC付近に張り付いてしまって、机間巡視が圧倒的に少ない状態となっている。ワークシートで文法練習をする時だけが、机間巡視の機会ではない。授業をデザインする際に、提示するデジタル教材が授業全体にどの程度貢献できているかまで深く考える必要があることを事前授業において伝えていくことが次年度の課題である。（福島知津子）

2019年度 教員養成センターの教育活動

- 5月～6月 —— 教育実習
- 6月29日 —— 第5回教職勉強会
- 8月5日 —— 教員免許状更新講習1
- 8月6日 —— 教員免許状更新講習2
- 8月9,10日 } 集中講義「教育と人間」
- 9月18,19,20日 }
- 9月 —— 教育実習
- 10月 —— 介護等体験実習(支援学校)
- 12月7日 —— 第6回教職勉強会
- 12月～2月 —— 介護等体験実習(福祉施設)



編集後記

★大学入試への英語民間試験導入が延期になり、英語教育界に激震が走っている。英語教育・教員養成に携わる私たちがなすべきことは何だろう。教職課程の活動を振り返りながら考えさせられた。(KT)

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
 教員養成センター Teacher-Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番5号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/oj/?ttc> 教員養成センターについて

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp